

令和3年度奈良市特定給食施設等研修会報告書

日 時	令和3年6月～8月末
場 所	奈良市ホームページにて書面開催 掲載 URL : https://www.city.nara.lg.jp/soshiki/97/9389.html
事業名	令和3年度 奈良市特定給食施設等研修会
主 催	奈良市健康医療部保健所保健衛生課
目 的	特定給食施設の管理者および給食担当者が栄養管理や食品衛生に関する正しい知識を身につけることにより、食中毒を予防し施設利用者の栄養管理の充実をはかるとともに、関連する法や施策の理解を深め、施設での取組に活かす。
対 象	特定給食施設（病院、高齢者施設、障害者支援施設、児童福祉施設、事業所、その他の施設）の管理者、栄養管理担当者および調理従事者等
参加者	153 施設 218 名 ※併任の方がいるため施設数と人数が異なる 参加率：70.1%（詳細は参加施設内訳参照）
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・「食品衛生法改正について」 奈良市健康医療部保健所保健衛生課 ・「国の第4次食育推進基本計画の概要について」 奈良市健康医療部保健所保健衛生課 ・「奈良市健康増進法施行細則の一部改正及び栄養管理報告書の作成について」 奈良市健康医療部保健所保健衛生課 ・「食品ロスの削減について」 奈良市環境部廃棄物対策課 ・「特定給食施設における肥満・やせに該当する幼児に関する指導・支援について」 奈良市健康医療部保健所保健衛生課 ・「離乳・授乳の支援ガイド改定」について 奈良市健康医療部母子保健課
評価方法	I. 対象とする施設全体の参加率（目標：6割以上）、参加者職種内訳 II. 奈良市特定給食施設等研修会受講報告書

参加施設内訳

施設種	対象施設数	参加施設数	参加率 (%)
病院・診療所	26	21	80.7
介護医療院	1	1	100
介護老人保健施設	11	7	63.6
老人福祉施設	46	38	82.6
障害者支援施設	22	19	86.3
私立保育園・こども園	38	25	65.7
公立保育園・こども園	23	23	100
有料老人ホーム	29	13	44.8
その他の施設	22	6	27.2
合計	218	153	70.1

I. 参加率、参加者職種内訳

○参加率

対象施設全体の参加率は70.1%（153施設）と大半が参加したが、有料老人ホームの参加率は昨年と比べて低下した。1施設の介護医療院を除き、特に参加率が高かったのは、公立保育園・こども園、障害者支援施設、老人福祉施設、病院・診療所であった。

○参加者職種内訳

管理栄養士 40.4%（88人）

栄養士 16.1%（35人）

調理師・調理員 26.1%（57人）

その他 17.4%（38人）施設長、保育士、看護師、事務、受託責任者、介護支援専門員等例年より調理師・調理員の参加割合が高かった。

II. 奈良市特定給食施設等研修会受講報告書

報告書は自由記述にて、次の項目について回答を得た。

1. 新型コロナウイルス感染症拡大により、施設の状況がどのように変化したか、工夫したこと、困っていること
2. 施設の課題
3. 今後の研修の希望
4. 感想

これらに関する各施設からの記載内容を次の方法によりまとめた。

項目ごとに共通内容（◎）について始めにまとめ、その後施設種別の特徴的な意見をまとめた。それぞれの施設利用者の特性による意見であると主観的に判断したものを、特徴的な意見として抜粋した。

1. 新型コロナウイルス感染症拡大により、施設の状況がどのように変化したか

<工夫したこと>

手洗い、手指の消毒、パーテーションの利用、換気、体調確認（検温）、ソーシャルディスタンスの確保、喫食箇所・時間の分散、黙食等を実施していることが挙げられた。

（◎：77施設/153施設）

○医療機関（病院・診療所）

新型コロナウイルス感染者への対応として、ディスポ食器使用、残飯、食器類を感染性廃棄物として廃棄、使用物品の消毒（トレイ、配膳車など）を多くの医療機関（7施設/21施設）で共通して行っていた。中には、新型コロナウイルス感染者との会話はナースコールで実施する施設があった。

○介護老人保健施設、老人福祉施設、有料老人ホーム

入居者や施設関係者に体調不良者が発生した場合における、PCR検査の結果が出ていないが新型コロナウイルス感染の疑いがある期間、胃腸症状がありノロウイルス感染の疑いがある期間の対処法を、具体的にマニュアル化している施設があった。

○保育園・こども園

幼児1人1人の動きを把握しやすくするため、喫食時の席を固定しているという工夫がみられた。また、新型コロナウイルス感染症拡大中においても工夫をして食育を行っている施設がみられたので、以下に具体例を紹介する。

- ・誕生会のバイキング形式を中止し、1人ずつワンプレートに盛り付けしたものを同じクラスの子供、先生と食べてお祝いする形に変更した。
- ・毎年5歳児に行っているクッキー作り体験は、1クラスを4グループに分け、時間帯も4回に分けて行い、さらに1回の中でも4台の机に分け、1つの机に2~3人までとするなど、密にならないような実施方法を考えて実施した。
- ・食材見学の実施や野菜を育て収穫など、工夫して食育を行った。
- ・集団でクッキングなどの食育ができないため、盛り付ける際に形を抜いてみるなど見て楽しくなるような盛り付けを心掛けた。
- ・従来の、野菜を自分で栽培し自分で調理するという体験は、現在は栽培した野菜は持ち帰り、クッキングは控えている。

○障害者支援施設

自分で消毒できない利用者には看護師が消毒を実施し、介助を行うスタッフはマスク・フェイスシールドを着用していた。グループ単位での食事では、調理員が予め1人分にセットしてスタッフが各部屋に運んでいた。

<困っていること>

施設利用者や職員から感染者が出た場合、限られた人員の中で安全に食事提供ができるか不安があるという意見が多く挙げられた。(◎:7施設/153施設)

○医療機関(病院・診療所)

感染拡大防止対策を徹底しているため消毒作業や確認作業の増加、新型コロナウイルス感染者への対応により多忙、ディスポ食器使用など感染拡大防止対応にコストがかかるなどの意見が多く見られた。(5施設/21施設)

その他、栄養指導室は窓がないため換気状態が悪く、アクリルシートを設置し、指導しているが不安が残るという意見があった。

○保育園・こども園

年齢が低いこともあり、子供たちが距離をとって食事をするのは難しいという意見が多く、幼児にとって黙食やソーシャルディスタンスは困難と思われた。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、子どもが直接食材に触れる調理体験や地域の人との会食、保護者向けの給食試食会や相談会・講習会などが中止となり、子ども・保護者に対する食育の機会が減少していると懸念の声があった。

その他、パーティーにより幼児の顔が見えにくいこと、休憩や喫食時間の分散という環境を作るのが難しいこと、新型コロナウイルス感染による急な休園で食品ロスが生じてしまったことも挙げられた。

○障害者支援施設

障がいのある利用者への声掛けや、黙食の徹底、食べ歩きをする利用者への対応が大変であった。知的障害者の施設では、自身で清潔に保つことができない利用者に対応するスタッフの負担が大きかった。また、楽しく食事をする機会が減ったという意見があった。

○その他の施設

学校や児童施設では、新型コロナウイルス感染症拡大中での食育の方法や黙食の徹底の難しさに苦悩していた。

2. 施設の課題

○介護老人保健施設、老人福祉施設、有料老人ホーム

施設で残食が多いという課題が挙げられた。

○保育園・こども園

肥満、やせの幼児に関する指導・支援について、園や家庭での生活スタイルを考慮しながら家庭と連携し今後支援を進めていくことが課題として挙げられていた。

3. 今後の研修の希望

施設における新型コロナウイルス感染拡大防止の対策方法、患者が実際に出た施設において困ったこと等の情報提供の希望が多くみられた。(◎: 5施設/153施設)

○医療機関(病院・診療所)

災害時の栄養士の役割や心構え、備蓄品などの情報提供、日本食品成分表 2021(八訂)の活用方法についての講習を希望する意見があった。また、毎年の研修会であった食中毒に関する内容があれば良かったという意見もあった。

病院で調理される食事は緊急入院対応用を含め、余裕をもって作っているため残食が発生する可能性がある。それらの食事を院外や職員等で提供する方法等あれば有効活用できるが、現実には衛生管理上困難であるため、残食の活用等を実施している施設がある場合、紹介してほしいという意見があった。

○介護老人保健施設、老人福祉施設、有料老人ホーム

栄養や食事に関連する法律が改訂された場合、その内容についての研修会を行ってほしい、介護報酬改定に当たって「栄養強化加算」や「LIFE」※についての研修会を行ってほしいという意見がみられた。また、高齢者の栄養摂取や在宅栄養指導についても知りたいという意見があった。加えて、腎機能低下・貧血・便秘症等、個別の食事の対応方法や栄養補助食品の特徴と利用方法などについても勉強したいという意見も寄せられた。

※「LIFE」とは、「Long-term care Information system For Evidence」の略で、「通所・訪問リハビリテーションデータ収集システム(VISIT)」と「高齢者の状態やケアの内容等データ収集システム(CHASE)」において、一体的な運用を開始し、科学的介護の理解と浸透を図る観点から厚生労働省によって作られた名称で、「科学的介護情報システム」を意味している。

○保育園・こども園

新型コロナウイルス感染拡大により調理体験や授業参観等を行えていないため、幼児・保護者に向けての食育の参考例、他の園や施設での取り組みを知りたいとの意見が多く出た。また、アレルギー除去食や離乳食で工夫していることや給食で利用できるレシピについてもっと教えてほしいとの声が寄せられた。その他には、子どもの咀嚼機能を高める、顎の力を強めるような給食・おやつ参考例を教えてほしい、給食の人気メニューや離乳食に用いる食材の栄養素等について紹介してほしいという意見もみられた。

○障害者支援施設

新型コロナウイルス感染症拡大下において、豊かな食事をどのように提供できるかを知りたいという意見がみられた。

4. 感想

感想の欄に記述されていた内容を研修内容の項目ごとに集計し、全施設の関心・印象に残った内容の傾向を見た。感想で多く記述されていた項目は「食品衛生法改正について」「食

品ロスの削減について」であった。食事提供を行う施設であるため、衛生関連の情報、食品ロスに関する情報に関心があることが読み取れた。

○全体

- ・大勢で集まりにくい中、このような形で研修を行ってもらえたことがありがたかった。
- ・新しい情報を知る機会が少ないため、まとめたものを読むことで大変勉強になった。
- ・書面での内容量が多く感じた。動画での配信だと理解しやすかったと思った。
(4 施設/153 施設)
- ・書面であった為、空き時間で受講することができた。(3 施設/153 施設)
- ・全体的に見やすく分かりやすい資料であった。改正点に注意して業務に取り組みたいと思った。
- ・管理栄養士として栄養状態改善・維持のためにバランスの良い食事や食生活を送れるように正しい知識などを指導していくこと、食育推進の重要性を感じた。

○「食品衛生法改正について」(47 施設/153 施設)

- ・大量調理施設衛生管理マニュアルを再確認する良い機会となった。
- ・安心・安全な給食の提供が徹底できるようにマニュアルに沿った衛生管理、温度管理の徹底に努めたいと思った。
- ・日々、ルーティン化している作業が科学的根拠に基づいた安全基準であるということを入れ、都度何のための手順なのかを思い出しながら従事していこうと思った。
- ・食品衛生法改正では、特に HACCP について、記載例まで詳しく載っていて理解しやすかった。Q&A では疑問に思っていた点が取り上げられており、疑問点が解消できた。
- ・HACCP について(特に内容記録の方法など)書面では理解するのが難しかった。
- ・保育園業務の中で原材料、アレルギー等食品の表示をチェックすることが多く、食品表示法の変更点の資料はとても参考になった。

○「国の第4次食育推進基本計画の概要について」(19 施設/153 施設)

- ・第4次食育推進基本計画の重要事項が参考になった。
- ・食育は子どもだけでなく生涯を通じ実践していくべきだと感じた。
- ・感染症拡大により、対面での栄養相談が一切できなくなった。新しい生活様式に対応するためにも患者様へのアプローチの仕方について見直す必要があると感じた。遠方から来られているご家族もいるため、感染拡大防止対策だけでなく、継続的にオンライン教室や動画配信サービスを提供することで食事に関する意識を高めることができればと思った。

○「食品ロスの削減について」(40 施設/153 施設)

- ・食品ロスの削減への取り組みとして、フードバンク制度があることを知り、食品の有効活用や生活困窮者の支援としても非常にメリットの大きい制度であると感じた。奈良市でも取り組みが進められていると知り、推進してもらいたいと思った。
- ・必要な発注や調理を心掛け、献立作成や適正な在庫管理など、食品ロスが減るような給食運営に努めたいと感じた。
- ・調理を毎日行っているので食品ロスは身近な問題であった。賞味期限などももう一度見直しや「手前どり」を心掛けることで廃棄を減らすべきであると思った。

○「特定給食施設における肥満・やせに該当する乳児に関する指導・支援について」

(12 施設/153 施設)

・食生活の変化や不規則な生活が増えてきている上に、感染予防対策による運動不足等により、肥満児が増加傾向にあることについて、園での保育内容や保護者との連携において配慮できることがあると感じた。

・新型コロナウイルス感染症拡大中で肥満が増加傾向にあるとのことであるが、現在、自園では肥満増加の傾向はみられないため今後も体重の変化に注意していきたいと感じた。改善のための食事ルールが参考になった。

・単に肥満がダメということではなく支援が必要な体格の子どもを施設が把握していることが大切という考えを再認識した。

○「離乳・授乳の支援ガイド改訂について」（9施設/153施設）

・改訂前後の内容が簡潔にまとめられており、根拠も書かれていたので分かりやすかった。

・最近、ベビーフードやイオン飲料の摂取量・使用頻度について保護者や保育士から聞かれることがあったので、このタイミングで見直すことができてよかった。

<報告書の結果に基づいて実施した対応>

・報告書から得られた新型コロナウイルス感染症の流行期における給食施設の対応事例をホームページで提供した。また、食の提供に関する現状や困りごとをまとめて市の関係部署と共有し、改善に向けたきっかけを提供した。

市ホームページ「新型コロナウイルス感染症の流行期における給食施設の対応事例」

<https://www.city.nara.lg.jp/soshiki/97/118210.html>

・施設からの質問に対して、電話及びメールで個別対応した。

<総評>

今年度は書面開催であったが、参加率は例年と比べあまり変わらなかった。書面開催により、場所・時間に関わらず受講することができ、実際に業務に携わる調理師・調理員の参加が増えた。大半の施設が受講され、受講者の意見として概ね全体的に見やすくわかりやすい資料だという意見が多かった。よって、書面での研修会の開催は新型コロナウイルス感染症拡大下での1つの形として有効なものであったと考えられる。

一方で、書面だと内容量が多く感じる、動画配信ではどうかという意見がみられたため、内容に合わせて、動画配信等の形式を検討することで、より受講者の理解を深めることができると考えられる。

報告書作成協力：奈良女子大学生生活環境学部 公衆栄養学臨地実習生